

令和7年1月吉日

さぎそう学舎世田谷区立八幡小学校
校長 阪田 敦子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 岡 篤
委員 中嶋 猛夫
八尾 孝枝
田部井 朝恵
吉岡 海果
(事務局)井下 玲生奈

令和6年度学校関係者評価結果報告書

今年度の「学校関係者等評価アンケート」の調査結果を調査・分析し、以下の通りまとめましたのでご報告いたします。

ご協力いただいた皆様に感謝いたしますとともに、本報告書をよりよき学校運営のための一助としてご活用いただき、八幡小学校が益々発展されますことを委員一同祈念いたします。

目次

- I. アンケート回収率 〈児童〉〈保護者〉〈地域〉
- II. アンケートについての学校関係者評価委員会の分析・聞き取り・所見
〈児童の評価〉〈保護者の評価〉〈地域の評価〉

※ 文中ではアンケート結果の「とても思う」・「思う」の回答を肯定的評価とし、「あまり思わない」・「思わない」の回答を否定的評価と表現する。

I. アンケート回収率

〈児童〉

	5年	6年
児童数	54	61
回収数	54	54
回収率	100%	88.5%

〈保護者〉

	全体
児童数	333
回収数	243
回収率	73%(69.3%)

()内は、前年度回収率

〈地域〉

配布数:35 回収数:20 回収率:57.1%

II. アンケートについての学校関係者評価委員会の分析・聞き取り・所見

【児童の評価】

1. 本校の学習について

全体的に高い評価である。昨年と比較して板書の評価が高く、先生方のご指導の努力や工夫が結果として出ている。6年生に否定的意見が多いのは受験の影響からではないかと考える。

2. 本校の生活指導について

昨年と同様に肯定的評価が高い。今年は5、6年生にばらつきもなく先生との信頼関係が構築されていることがうかがえる。

3. 本校の学校行事について

継続して高い評価である。今年は更に児童が主体となり達成感を感じた結果と推測する。「先生は児童の意欲を大切にしている」の評価が高く、児童の主体性を大事にしていることを反映している。

4. キャリア教育について

児童のキャリアパスポートへの認識が浸透してきている。学校側の様々な取り組みが行われた結果と考える。「区立中学校に関する情報」についての肯定的評価は昨年と比較すると高くなったものの、全体的には低い。5年生は八幡中学校に部活見学へ行った直後だったので高く、6年生の一部は既に別の進学先に決めているので低いと推測される。

5. 本校の先生について

肯定的評価が高く、児童と先生の信頼関係が築けている結果である。6年生で「相談できる」が低いのは中学受験者が多い事情を反映しており、相談する人は先生より家族か友達なのではないかと考える。

6. 全般について

児童の9割以上が「学校生活は楽しい」、8割以上が「学校が好き」と回答しており素晴らしい。「家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている」の低評価については、宿題の提出物など実施状況に問題はないが、学校では「e-ラーニング」の言葉を使用しておらず、昨年同様に「e-ラーニング」の言葉に引っかかり、質問の意図が分からぬ児童もいる可能性がある。

学び舎の中学校との交流の機会について、昨年度より「あまり思わない」が約10%下がったのは、アンケートを部活見学の2週間前に行ったため、タイミングの問題と推察される

7. 八幡小学校独自項目

全体的に高評価である。タブレットの使用方法については、児童は高い自己評価で保護者の評価と必ずしも一致しておらず、正しく使われていない可能性がある。今後も専門家の話を聞く機会を設けるなど、使用方法の指導が重要である。

【保護者の評価】

1. 本校の学習指導について

全般に高い評価である。「黒板の書き方やプリントの工夫している」について、「分からない」という意見が多いのは、保護者が学校公開などで板書やプリントを目にする機会が減っており、学校で板書の工夫はされているものの、保護者の評価に反映されていないのではと思われる。昨年度より肯定的評価は上がっているので、長期的に見ていく必要があると考える。

2. 本校の生活指導について

一部の学年に否定的回答が他学年と比較して多いのは、この学年の状況が影響しているものと思われる。学校側の指導が十分に理解されておらず、保護者の認識と乖離している可能性がある。子どもが理解できる伝え方の指導の工夫をお願いしたい。

3. 本校の学校行事について

全体的に大変素晴らしい評価である。児童が楽しんで活躍できる場が提供されていることがうかがえる。中学年一部で否定的評価が高いことが、全体的な評価を下げた可能性がある。

4. キャリア教育について

児童の評価は高いが保護者が低い理由として、一部の学年においての理解が進んでいない事を反映している。キャリア教育は保護者に認知されにくいため伝わりにくく項目であり、低学年においては「分からない」の回答が高い傾向にある。中学年一部においては否定的意見が多くかった。保護者に対する理解の徹底に工夫が必要である。

5. 本校の先生について

全体的には約8割が肯定的評価で良好である。中学年一部に否定的回答が見受けられるが、高学年が非常に高いのは素晴らしい。

6. 全般について

全般的に肯定的評価が高く、本校の学校生活に満足している様子がうかがえる。中学年の一
部で「子どもにとって楽しい」の回答に否定的意見が多数見られるが、高学年は非常に高くポジティブな数値である。

「学び舎」の言葉自体に馴染みが薄く、地域運営学校の内容や目的を知らない保護者が多いと思われる。4月の保護者会では周知しているが、継続的な活動を通して保護者にも認知されているので、情報提供としては問題はないのではないか。「家庭で自主的に勉強をしている」の評価が昨年と比べて低くなったのは、宿題に対する考え方の変更の過渡期にあるので、今後も長い目で見ることが必要と考える。。

7. 情報提供について

学校からの情報提供については、昨年度とほぼ変わらず問題ないと考える。「学び舎」について1年生の評価が低いが、学年が上がるにつれて認識が浸透しているようないで素晴らしい。本来は、「学び舎」についての理解は低学年から進めていくことが望ましい。情報提供はされているが、保護者が興味を持っていない背景もあると考える。

8. 学校運営について

全体としては肯定的意見が多数であるが、学年によって評価の差が顕著に出ている。「学校の重点目標を伝えている」については昨年より若干低くなっているので、具体的に周知される工夫も必要である。

9. 学校と家庭の連携について

学年の差は少なく全体的に素晴らしい評価である。「学校の重点目標を理解している」が前項目の「伝えている」と比較し低い。学校だよりで発信はしているが、より具体的な言葉で分かりやすく伝える工夫も必要と考える。

10. 地域との連携について

否定的意見は少ないが「分からぬ」が増えている理由として、情報も交流もあるが、保護者に伝わっていない、興味のある報告として残っていない可能性がある。

11. 学校の安全性について

昨年とほぼ変わらず全体的に良好である。自然災害時の対応の提供については年間に数回にわたって発信されることで更に評価が高くなる可能性がある。

12. 八幡小学校独自項目

「タブレットやインターネットを正しい利用するために話し合いや指導している」が昨年より低くなった理由として、児童の知識が保護者のそれを凌駕し、指導できていないと感じる保護者が増えたと判断する。保護者や先生方との話し合いが必要であり、第三者の指導の機会を継続して設け、正しく教育していく必要がある。

「盆踊りなどの地域の行事が必要だと思う」が全体的には肯定的評価が高いものの昨年より低いのは、積極的に参加する人としない人の差があるのでと推測する。

「地域や企業の方が授業に参加していることを知っている」に低学年保護者は他学年と比べてその機会をあまり持たないため、「あまり思わない」「分からぬ」と回答したものと思われる。

全体的な傾向としてではあるが、「言葉遣いの丁寧さ」も一部の学年の評価が低いことにより、学校全体の平均が低くなっている。

【地域の評価】

1. 生活指導について

否定的意見はなく、残り1割は「分からぬ」ことから通学路付近にお住まいではない方の回答と思われる。全体的に概ね評価されている。

2. 学校行事について

昨年より評価の上がっている項目が多い。「分からぬ」の回答が昨年より多いが、学校行事に参加していないことが多いので問題ないと考える。学校のお知らせ(学校だより)に掲載されているので、このまま継続して見ていただきたい。

3. 学校からの情報提供について

学校公開などには参加されていないので、「分からぬ」の評価が昨年度から引き続き多い。学校だよりでもお知らせ、活動自体は十分行っているが、地域の方へのお知らせの仕方の工夫も今後必要である。

4. 学校運営について

特に問題なく、十分な結果である。地域の人たちは学校の対応に満足していると判断する。

5. 地域との連携について

今年は「分からぬ」の評価が増えたが、発信自体は前年度から変わらないので、発信が届いていないのではないか。コロナ禍以降、学校協議会や合同学校協議会は開催していないので「あまり思わない」「分からぬ」の4割ほどの結果は妥当だと判断する。学校運営委員会は周知されており肯定的な評価である。

6. 学校の安全性について

非常に良好。避難所運営訓練は学校側も参加しており、学校の安全に対する意識が高いことが分かる。「地域と協力している」に「分からぬ」の評価が増えたのは、地域の担当者のみの参加で全体的な周知に至らないためではと推測される。

7. 八幡小学校独自項目について

「挨拶をしている」に7割が肯定的評価。「思わない」と「分からぬ」が増えた理由として、学校からは挨拶を指導しているが、一方で知らない人とは話さないという指導をしているからではとも考えられる。

「子ども達のマナー」の評価も良く、地域の人と子ども達のコミュニケーションも良好である。「地域の方や企業の方が授業に参加している」についてはアンケートを取った時点ではまだ行われておらず、学校だよりにも掲載されていないため、肯定的評価が低いと推測される。「地域行事の必要性」は「とても思う」の割合が倍近く多くなり、高い評価で素晴らしい。